

《芽ばえ賞》

「いきいきと暮らす」

有田市立宮原小学校 6年

むらた
村田 みわ
実環 さん

「おはようございます」
と通りかかった人にあいさつをする。少し前までは自分からあいさつをする自信がなかったけれど、今は少し違う。

私達は高齢者とのつながりをもっと深く持てるようにと、授業で高齢者宅訪問が行われた。実際に訪問させてもらうと、高齢者とは思えない、生き生きとした方が、私たちの質問に丁寧に答えてくれて、いろいろな話をして楽しいひとときを過ごすことができました。私の身近な高齢者を思いうかべてみると、山おくに一人で暮らしている90才近くになる、ひいおばあちゃんがいます。ひいおばあちゃんは、朝起きる時間やそうじをする時間が毎日だいたい決まっていて、遊びにきてくれる人達がいて、話を聞き合ったり、分からない事があっても友達と電話で相談したりしている。また、家の周りでこわれた所ができた時には近所の人に直すのを手伝ってもらったりしていつも地域の人のやさしさや力をかりて毎日元気に暮らしています。私達もときどき、ひいおばあちゃんの家へ遊びに行くことがあります。その時はどんな時でもいつも笑顔でむかえてくれて、弟といっしょに虫とりをしてくれたり、私の学校での話を聞いてくれたりと全力で私達の相手をしてくれます。お茶やおかしも出してくれて楽しい時間を過ごさせてくれます。私はそんなひいおばあちゃんの姿を見ると、「もうすぐ90才なのに何でも自分のことは一人でできてすごいなあ。私達の方が若いのに、ひいおばあちゃんの方が、パワーがあるなあ」と思います。

いつまでも、元気でいきいきと暮らしている人達はみんな地域の人達などと、つながっていて、よく話をしたりしていると感じました。そう考えるとあいさつをすることは人とつながる第一歩なんだと思ったら、自然と声が出るようになりました。